

ふるさと Something NEWS

第23回

日本に未来はなくはない ——未来をつくるのは、やはり若者

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

有楽町の午後

有楽町駅を降りて歩く
と、東京国際フォーラム
の広いガラスの壁には、
残り少なくなった木の葉
が映っている。11月最後
の日曜日、「教育から日
本の未来を変える!」の
行事があるというので惹
かれて出かけた。エスカ
レーターに乗りB5のフロ
アのレセプションでQR
コードによりチケット登
録した。

18歳意識調査

いよいよ開始の時間にな
った。

どこに座ればいいのかと
迷うくらいに、まだ椅子
が空いている。前から5
列目、左側に席を選ん
だ。この位置が落ち着
てくる。巨大な液晶モニ
タがMCの顔を映してい
る。その担当は、日本財
団の若手社員。まず日本
財団の稲盛会長が紹介さ
れ挨拶した。

めずらしく13時の開場
の30分も早く着いた。フ
ロアでは、あるNPOに
より木製玩具の展示&利
用サービスが行われてい
た。子供連れのファミリ
ーのほか大人も満足げに
遊んでいる。木質の肌さ
わりの良さと香り、そし
てデザインと制作意図の
せいでさう。ドイツのザ
イフェンのおもちゃ博物
館や工房を思い出した。
プラスチック素材ではな
く木材利用で、持続可能
な社会を創らなければな
らない。SDGsに重ね
て大いに推進できればい
いと思う。

同じく、持続可能な日
本の未来社会を教育によ
り創られるかを問うの
が、その日のイベント。

表1: アンケート結果

項目	日本 (%)	第1位 (%)	第8位 (%)
①	29.1	89.9 (中国)	49.1 (インド)
②	44.8	96.5 (中国)	74.6 (インドネシア)
③	60.1	97.0 (インドネシア)	82.2 (韓国)
④	18.3	83.4 (インド)	39.6 (韓国)
⑤	46.4	89.1 (インド)	66.2 (ドイツ)
⑥	27.2	87.7 (中国)	55.0 (韓国)

日本財団が、今年9月
27日から10月10日までの
間で、世界の9カ国の各
国1000人の18歳に、
以下の6つの項目につい
てインターネットでアン
ケート調査したという。
①自分を大人だと思う
②自分は責任がある社会
の一員だと思う
③将来の夢を持っている
④自分で国や社会を変え
られると思う
⑤自分の国に解決したい
社会課題がある
⑥社会課題について、家
族や友人など周りの人
と積極的に議論してい
る

の6つが質問項目である。
これらの質問に、「はい」と答えた割合が、他
の8カ国(韓国、中国、

と意見交換し
た。日本人の
慶応大学1年
の木暮里咲さ
ん、青山学院
高等部3年の
高野部3年の
中村伊希さ
ん。ベトナム
人留学生の早
稲田大学2年
のホーティク
ウィンチャン
さん、そして
インド人留学
生の立教大学
2年のヤシユ
ウニセルバ
ラジさんだ。
この4人は、
いずれも自分
の意見を持つ
ており、語りも上手だ。
とくに、留学生は問題意
識が明確である。この4
人は、そろって自分で国
や社会を変えられると手
を挙げた。頼もしい4人
である。

ベトナム、インドネシ
ア、インド、ドイツ、イ
ギリス、アメリカに比
べて、日本が著しく低
く、しかも、どれも最低
であった【表1】。この
ことが、稲盛会長も気に
なり、今日のフォーラム
を開いたという。

問題意識高い留学生 〜高大生パネルセッション

最初のセッションは、
「自分で国や社会を変え
られる?」と題したアン
ケートの④の質問に関連
し、4人の高大生が発表

図: 高校魅力化のスライド



「BE Frontie
r」という団体を結成
り進める活動を行ってい
る。団体の仲間でも広範
なことに興味を持つ人
と、自分の価値を追求す
べた。いまは、今治市に
サッカーチームを作り、
リーグ加入に向けて活動
しているという。独自性
の有用性を説いた。

いよいよ4人の中高生
が登場し、「ユメジツゲ
ン大会」と題して、中高
生の声で社会を変える取
り組みについて、発表と
意見交換した。司会は、
ジャーナリストの下村健
一さんが担当した。

中高生 パネルセッション

次のセッションは、15
時から始まったが、冒頭
には、元・サッカー日本
代表監督の岡田武史さん
が基調講演した。岡田さ
んは監督としての人生観
や組織づくりの考えを述
べた。

は「教育か
ら日本未来
を変える
!?」と題し
て、大人た
ちのセッシ
ョンがはじ
まった。8
人の活動者
がパネラー
として登壇
した。司会
は、今村久
「④難しいことでも失敗
を恐れなくて挑戦してい
る」、である。その結
果、全国の魅力化高校で
の学習者は、全国平均に
比べ数値が高い【表
2】。その理由は、魅力
化高校では、プロジェクト
学習として、地域の人
や地域性と関わり、現実
の課題について接してい
るからであるという。

他、大人たち6名も、
高校の魅力化にそれぞれ
の切り口で貢献している
方々であった。従来の高
校での教育とは、まった
く異なる斬新な取り組み
が紹介された。私は、こ
うした取り組みは、「教育
から日本未来を変え
る!」ものであると思
い、かつ心地よい刺激を
感じた。

日本の未来は地方から

日本未来は、閉塞感あ
る地方や地域が、決め手
となる。なぜなら、東京
や大阪ほか、大都市と比
べて土地があり、行動す
る面積が広いのである。
いろいろの夢や希望の宝
庫であり、その地も文字
通り「有楽町」となりえ
るかもしれない。

表2: 魅力化高校の活力

項目	全国平均 (%)	魅力化高校生徒 (%)
①	27.2	39.1
②	29.9	37.6
③	51.5	75.8
④	40.6	67.8

いまの時期だいなぶ日が
短くなったが、17時から